

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成30年度 第5回 相模原市総合計画審議会				
事務局 (担当課)		企画政策課 電話042-769-8203(直通)				
開催日時		平成30年10月15日(月) 18時00分~20時00分				
開催場所		相模原市立産業会館3階大研修室				
出席者	委員	27人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	22人 (企画部長、企画政策課長 他20人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	3名
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		開会 1 議事 (1) 次期総合計画の策定について ア 本市を取り巻く社会経済情勢について イ 平成30年度の市民参加の取組について (2) その他 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり

(委員の発言、 会長の発言、 事務局の発言)

開会

企画政策課長の司会のもと、今回の総合計画審議会から、牧瀬稔委員を新たに委嘱した旨の報告を行った。

1 議事

吉田会長の進行により議事に入った。

(1) 次期総合計画の策定について

ア 本市を取り巻く社会経済情勢について

事務局より本日の議事(1)ア「本市を取り巻く社会経済情勢について」の資料の説明を行った。

前回の審議会でも指摘したが、市民に分かりやすいという点で、年数については、西暦で表記するか、西暦を併記することを願いたい。

資料 1 - 3 に記載されている大規模事業については、事業評価は終わっているのか。

既に具体的な計画が決定している事業については評価を行っているが、それ以前のものを行っている。

南区の区民会議では、大学卒業後の世代や住宅購入世代について、転出超過となっていることを課題として捉えているが、次期総合計画期間においても同様の傾向が続くと想定されているのか。

同様の傾向が続くことが想定される。

光が丘地区は高齢者社会となっており、特に県営上溝団地は顕著となっているが、県営上溝団地の今後の活用方法等の動向は市として把握しているのか。

現時点で県から更新時期などの明確な情報提供はないと認識している。

長期財政収支について、歳出の人件費については、会計年度任用職員への移行や定年延長による影響は見込んでいないとのことだが、人件費が減少してい

る理由はなにか。

退職金の減少によるものである。

非常勤職員が近年増加していると想定されるが、会計年度任用職員への移行について、試算から除いて問題ないのか。

本市においても非常勤職員が近年増加しているが、会計年度任用職員については、現在、運用方法について検討中であるため、決定し次第、長期財政収支に反映することを考えている。

現時点ではどのぐらいの費用を想定しているのか。

現行の制度では33億円である。

公共施設の老朽化に関わる費用についても、長期財政収支に含まれていないが、このことについてはどのように考えているのか。

公共施設の老朽化については長寿命化を図るとともに、財政上有利な市債を活用しながら対応していきたいと考えている。

どのぐらいの費用を想定しているのか。

公共施設白書においては、平成44年から53年が改修のピークであり、事業費ベースで年間230億円と試算されている。

そのことを考えると、歳出の扶助費についても、かなり厳しい状況になると考えられる。また、歳入についても生産年齢人口が減り、税収が減ることは想定されないのか。

平成29年度の決算においても市税は1.5%の増加であり、高齢化の影響はあるが、これまで実施してきた大規模事業の効果もあり、このような推計になっている。

これから相模原市は大きな事業をし、発展していくと考えていたが、高齢化が進行していく中で、人口を増やすことが本当に可能なのか。また、資料の中

で、相模台地区は、- 4 . 0 %の世帯減となっているが、麻溝台・新磯野地区の整備推進事業のことについては計算されているのか

大きな事業をすることによって必ず人口が増えると断言できないが、様々な事業や取組を組み合わせることで、人口減少を食い止めることができると考えている。麻溝台・新磯野地区の整備推進事業については、相模台地区の人口として計算している。

人口減少を前提として、今後のまちづくりを考えていくことが重要である。

開発インパクトによる就業人口の増加はどのように計算したのか。

計画に記載されている開発面積をもとに計算している。

総合戦略において、人口減少を食い止めるための様々な取組をしているが、人口推計はこのような取組の効果が反映されているのか。

取組の効果は反映されていない。

今後は、大規模事業の効果による人口増も含めて、人口推計を見直していくのか。

次期総合計画策定の中で、人口推計を見直すことは現時点では考えていない。

長期財政収支において、国民健康保険事業の見直しをし、34年度から繰出金が減少するとなっているが、国民健康保険料が上がり、滞納者が増えることも想定される。財政見通しとして確定的なものとして位置付けているのか。

資料1 - 2において、義務的経費等の歳出については、法定外繰出金は含まれていないため、義務的経費等以外の歳出の中でどのように対応していくか検討していくものと考えている。

基本構想については、概ね20年の期間であるが、長期財政収支については10年間の見通しとなっているのはなぜなのか。

20年先の社会情勢を予想することが困難であるためである。

大規模事業により、市税収入について堅調に推移するとなっているが、どのような事業でどのくらいの収入があるのかといった、より具体的な資料を提供してもらうことは可能か。

手続をしていただければ可能である。

人件費において、定年延長を見込んでいない理由はなにか。

定年延長については、制度を庁内で検討中であるため、決定次第、長期財政収支に反映することを考えている。

地区によって世帯数や人口の推計状況が大きく違うなかで、これまでの地区別計画がなくなって本当に大丈夫なのか危惧している。区ごとの計画においては、これらのことを踏まえて、地区のことを反映させて策定いくのか。

区ごとの計画においては、地区ごとの状況も反映しながら策定するものと考えている。

地区ごとの状況や特徴を重視して、画一的な計画にならないようにすることが重要である。また、長期財政収支については、国の制度等が変わっていくことも考えると10年程度の推計が限界ではあるが、生産年齢人口の減少により、財政が厳しくなることは明らかであるため、それらを想定しながら検討していかなければならない。

この長期財政収支の資料だと、将来的に財政に余裕があると感じてしまう。正確な数字は出ないのかもしれないが、生産年齢人口の減少なども踏まえた、もう少し現実に沿った推計の資料であるべきだと感じている。

全国的に、後期高齢者が前期高齢者を上回ってきているという状況を考えてみると、単に高齢化が進行しているという資料ではなく、それぞれの数値を示すとともに、相模原市はどのような地域特性があるのか示すべきである。また、全国的に1世帯あたりの人数についても減少しているため、そのことについても示していただきたい。

次回の審議において、お示ししたい。

イ 平成30年度の市民参加の取組について

事務局より本日の議事(1)イ「平成30年度の市民参加の取組について」の資料の説明を行った。

若手職員のワークショップにおいて、若手ならではの意見はどのようなものがあったのか。

都市像におけるキャッチフレーズや、本市の10年後のニュースについて、若手職員ならではの柔軟な発想による意見が出ていたと感じている。

中高生アンケートでは交通の便が良いとなっている一方、大学生アンケートでは交通の便が悪く定住したくないとの意見があるが、どのように分析しているのか。

交通の便については、全市民を対象としたアンケートでも意見が分かれているところであり、鉄道の沿線周辺の地区は交通の便が良いと回答し、駅から離れている地区は交通の便が悪いと回答する傾向であった。中高生と大学生の意見の違いについては、市外から通学している大学生が、交通の便が悪いと感じているのが1つの理由ではないかと考えている。

中高生については、自転車道などの身近な交通の部分で、交通の便が良いと回答していることも考えられるため、公共交通の充実における施策は広い視点で考える必要がある。

大学生が地域の祭りに出店し、大変にぎわった事例があった。今後の市民参加事業についても、大学生に協力してもらい、にぎやかなブースを出し、通った人から意見を聞くといった取組をしてはどうか。昼休みなど短い時間で効率的にやるのも良い。

区別基本計画において、8年後の将来像を定めることになっているが、区役所や各地区がどのような位置付けになっていくのか、将来的なビジョンが示されないと検討が難しいと考えている。

市民の誰もが意見を述べることのできる市民参加事業は良いことだが、そろそろ意見を述べる場ではなく、実践が必要である。空き家・空き地を市民が主体となり、高齢者カフェやコミュニティファームとして活用する取組など、市民が自らまちづくりに参加する中で、市民合意を図る仕組みづくりが必要である。

(2) その他

事務局より本日の議事(2)「その他」として、「新・相模原市総合計画の体系における部門別計画」及び「大区役所制と小区役所制」についての説明を行った。

(質疑等なし)

特に意見等がないようなので、本日の議事は終了とする。

閉会

椎橋企画政策課長

以上

相模原市総合計画審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	吉田 民雄	総合政策プランナー	会長	出
2	金森 剛	相模女子大学人間社会学部社会マネジメント学科教授	副会長	出
3	松永 千賀子	相模原市議会議員		出
4	五十嵐 千代	相模原市議会議員		出
5	阿部 善博	相模原市議会議員		出
6	須田 毅	相模原市議会議員		出
7	岸浪 孝志	相模原市議会議員		出
8	加藤 明德	相模原市議会議員		出
9	永井 博	相模原市教育委員会教育長職務代理者		出
10	高橋 三行	相模原市市農業委員会会長		出
11	小泉 幸隆	相模原市農業協同組合代表理事組合長		欠
12	杉岡 芳樹	相模原商工会議所会頭		出
13	水谷 好男	相模原市立小中学校PTA連絡協議会副会長		出
14	坂本 堯則	相模原市自治会連合会会長		出
15	小山 龍次	公益社団法人相模原青年会議所理事長		欠
16	戸塚 英明	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会会長		出
17	石井 トシ子	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら代表		出
18	幸山 隆	相模原地域連合事務局長		出
19	竹村 克二	一般社団法人相模原市医師会会長		出
20	荒井 容子	法政大学社会学部社会学科教授		出
21	中田 恭子	青山学院大学理工学部化学・生命科学科准教授		欠
22	長野 基	首都大学東京都市環境学部都市政策科学科准教授		出

23	西田 恵一郎	和泉短期大学児童福祉学科准教授		出
24	大谷 聡穂	公募委員		出
25	栗田 愛子	公募委員		出
26	高田 泉	公募委員		出
27	林 佳美	公募委員		出
28	牧瀬 稔	相模原市緑区区民会議会長		出
29	飯島 泰裕	相模原市中央区区民会議会長		出
30	松下 啓一	相模原市南区区民会議会長		出